

報道関係者 各位

2019年2月19日

公開講演会「アンデス文明の起源を求めて—日本人研究60年の軌跡と展望」**2019年3月22日（金）開催！国立民族学博物館**

国立民族学博物館（大阪府吹田市千里万博公園10-1）では、公開講演会「アンデス文明の起源を求めて—日本人研究60年の軌跡と展望」を2019年3月22日（金）に開催する運びとなりました。

日本人研究者が約60年にわたって続けてきたアンデス文明研究の意味と意義を、調査団の活動と当時の社会状況をふまえて紹介します。また関心や対象を広げつつある次世代の研究動向として、南海岸に位置する「ナスカの地上絵」の研究・保存を推進する山形大学のプロジェクトを取り上げ、今後進むべき研究の方向性、そして遺跡が存在する地域の人びととの協働の可能性などを考えます。



ペルー北高地パコパンバ遺跡より出土したヘビ・ジャガー象形壺
©パコパンバ考古学調査団 撮影 Alvaro Uematsu



コトシュ遺跡「交差した手の神殿」の発掘風景 1963年
©東京大学アンデス調査団

【講演1】 神殿を掘る—文明研究の変貌と展開

関雄二（国立民族学博物館 副館長・教授）

日本人による南米アンデス地帯の考古学調査は、1958年に開始され、昨年で60年を迎えました。アンデス文明の起源を求めて研究を推進した初期に、世界的な業績をあげましたが、その後も、文明観を変える発見や理論構築に貢献してきました。その歴史的な流れと、現在のプロジェクトを紹介し、今後のアンデス研究の行方を展望していきます。

【講演2】 ナスカの地上絵の研究と保護—山形大学の挑戦

坂井正人（山形大学 教授）

世界遺産「ナスカの地上絵」に関する学際的研究を、山形大学では2004年から実施しています。2012年にはナスカ市内に山形大学ナスカ研究所を設立しました。これまで山形大学で実施してきた地上絵に関する学術研究を紹介するとともに、現在、ペルー文化省と一緒に取り組んでいる地上絵の保護活動についてお話しします。

【パネルディスカッション】新しい文明研究を目指して

【コメンテーター】

中村誠一(金沢大学 教授)

【参加者】

関雄二(国立民族学博物館 副館長・教授)×坂井正人(山形大学 教授)

【進行】

卯田宗平(国立民族学博物館 准教授)

本ディスカッションでは、中米マヤ地域の研究者である金沢大学の中村誠一教授を招き、アンデスや世界の文明研究における日本人の研究の位置づけや特徴、今後進むべき研究の方向性、そして遺跡が存在する地域の人びととの協働の可能性を討議していきます。

【公開講演会とは】

先端的な研究活動を取りあげ、その成果を社会に積極的に還元するとともに、文化人類学・民族学をつうじた異文化理解と、広く本館が学術研究機関であることの認識を一般市民に深めてもらうことを目的として、東京と大阪において実施しています。今年度は、2018年11月2日(金)に日経ホール(東京)にて「音楽から考える共生社会」を実施しました。

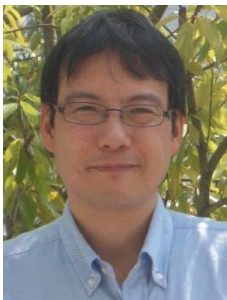
【プログラム】

17:30-18:30	開 場	
18:30-18:35	開 会	砂間裕之(毎日新聞大阪本社 編集局長)
18:35-18:40	挨 拶	吉田憲司(国立民族学博物館 館長)
18:40-19:10	講 演 1	関雄二「神殿を掘る—文明研究の変貌と展開」
19:10-19:40	講 演 2	坂井正人「ナスカの地上絵の研究と保護—山形大学の挑戦」
19:40-19:55	休 憩	
19:55-20:45	【パネルディスカッション】「新しい文明研究を目指して」	
	参 加 者	関雄二×坂井正人
	コメンテーター	中村誠一
	進 行	卯田宗平

【登壇者紹介】

**関雄二(国立民族学博物館 副館長・教授)**

専門は文化人類学、アンデス考古学。1979年以来、南米ペルー北高地において神殿の発掘調査を行い、アンデス文明の成立過程を追及するかたわら、文化遺産の保護と活用にも取り組む。主な著書として『古代アンデス 権力の考古学』(2006年、京都大学学術出版会)、『アンデスの考古学 改訂版』(2010年、同成社)、『アンデスの文化遺産を活かすー考古学者と盗掘者の対話』(2014年、臨川書店)などがある。

**坂井正人(山形大学 学術研究院 教授、山形大学ナスカ研究所 副所長)**

専門は文化人類学、アンデス考古学。近年は世界遺産ナスカ地上絵に関する研究調査に従事している。編著に『ナスカ地上絵の新展開—人工衛星画像と現地調査による』(2008年、山形大学出版会)、『ラテンアメリカ(朝倉世界地理講座—大地と人間の物語)』(2007年、朝倉書店)などがある。

【コメンテーター】

**中村誠一(金沢大学 人間社会研究域附属 国際文化資源学研究中心 教授)**

中米マヤ文明の世界遺産であるホンジュラスのコパン遺跡やグアテマラのティカル遺跡を中心に、35年にわたり現地での調査研究を指揮している。編著に『コパン考古学プロジェクト(PROARCO):9L-22,9L-23グループにおける考古学調査(1)』(金沢大学文化資源学研究 第16号、2018年、スペイン語)などがある。

【司会】

**上羽陽子(国立民族学博物館 准教授)**

専門は、民族芸術学、染織研究。特にインドを対象として、つくり手の視点に立って染織技術や布の役割などについて調査研究を行っている。近年では、現生人類の植物資源利用やバスケットリーに関する研究に取り組んでいる。近著に『インド染織の現場—つくり手たちに学ぶ』(2015年、臨川書店)などがある。

【進行】

**卯田宗平(国立民族学博物館 准教授)**

専門は環境民俗学。日本や中国において人間と動物とのかかわりを研究している。著書に『鶉飼いと現代中国—人と動物、国家のエスノグラフィ—』(2014年、東京大学出版会)、編著に『アジアの環境研究入門—東京大学で学ぶ15講』(2014年、東京大学出版会)などがある。

【開催概要】

講演名	公開講演会「アンデス文明の起源を求めて—日本人研究60年の軌跡と展望」
日時	2019年3月22日(金) 18:30～20:45(開場17:30)
講演会場	オーバルホール 定員480名(大阪市北区梅田3-4-5 毎日新聞社ビルB1階)
東京サテライト会場	ブリット記念ホール 聖心女子大学4号館／聖心グローバルプラザ3階 (東京都渋谷区広尾4-2-24)【ライブ中継】
主催	国立民族学博物館、毎日新聞社
協力	山形大学、金沢大学人間社会研究域附属 国際文化資源学研究センター、 アンデス考古学調査60周年記念事業実行委員会、聖心女子大学

【講演会場】 オーバルホール：要事前申込(先着順)／無料 ※手話通訳あり

【申込フォームの場合】

国立民族学博物館のホームページ内にある申込フォーム画面に従って必要事項をご記入ください。

<http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/news/alp/20190322>

【往復ハガキの場合】

往信面に次の①～⑥を記載してください。※申込締切日 3月18日(月)

①郵便番号 ②住所(返信用宛名面にも)③年齢(任意)④電話番号 ⑤参加者氏名・ふりがな(本人を含め5名まで)⑥3月22日公開講演会

*参加申込をいただいた方の個人情報、本講演会のみで使用いたします。

*車椅子をご利用される方は、お席をご用意致しますので、お申し込みの際に必ずご記載ください。

申込方法

【東京サテライト会場】 ブリット記念ホール：事前申込不要／無料／自由入場
※手話通訳あり

宛先

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
国立民族学博物館 研究協力課
TEL 06-6878-8209 FAX 06-6878-8479
メールアドレス koenkai@minpaku.ac.jp

【お問い合わせ】 国立民族学博物館 総務課 広報係
電話:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail:koho@minpaku.ac.jp
プレス向けウェブサイト www.minpaku.ac.jp/press